

やめよ!徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信

No. 16 (98. 3. 5)

事務局 TEL 0584-78-4119

大垣市本町2-27 FAX 0584-82-4119

3月14日、大垣・興文地区センターへ 国際河川ネットワーク(IRD)統一行動日

ダムは人の暮らしに役立たない。それどころか財政を圧迫し、森と川を殺していく…。
「もうダムは要らない」という声は、世界中でますます大きくなっています。3月14日は国際河川ネットワーク(IRD)が「国際ダム反対行動デイ」を呼びかけています。

ダム・自然破壊を伴う無駄な公共事業の暴走が止まらないような日本の社会のシステム自体を変えたいという問題意識の下に、国際河川ネットワーク・西濃／徳山ダム建設中止を求める会では、2月14日に揖斐川町で「シンポジウム 住民自治と地域振興 山村の自立を考える」を開催しました。藤橋村から多くの参加者を得、率直な意見を聞くことができました(このシンポのメモを同封します)。

3月14日は、このシンポに引き続き、山村の自立・自治を考える集会を開きます。藤橋村のリコール署名運動の代表者を務められた中川治一さんから、藤橋村での運動についてお話を伺います。藤橋村での住民の立ち上がりは、残念ながら村長選としては実を結ぶことはできませんでした。けれど、藤橋村での新しい動きは、今後に大きな希望をつなぎました。

「真の地域振興」「真の住民自治」こそ、無駄な公共事業と自然破壊をくい止める防ぐ根本的な方策です。多くの方のご参加をお待ちしています。

「住民自治と地域振興」 山村の自立を考えるⅡ

日時：3月14日(土) 午後1時半から

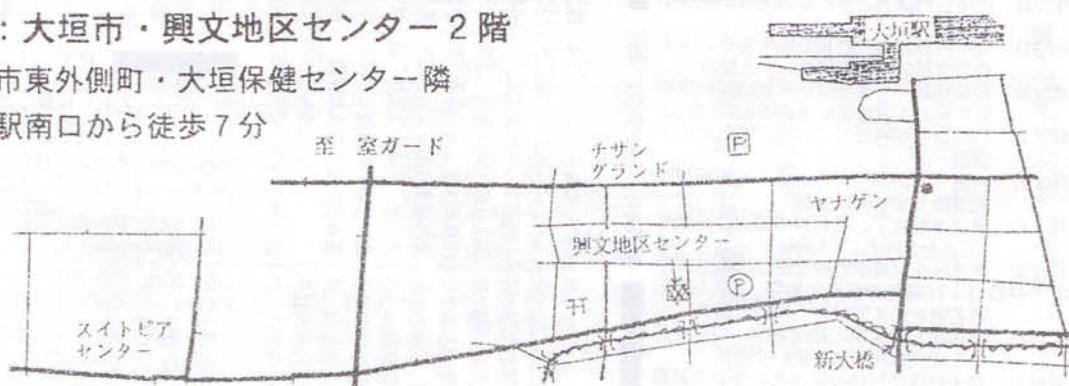
講師：中川治一さん(藤橋村リコール署名・代表者)

主催：国際河川ネットワーク・西濃／徳山ダム建設中止を求める会

場所：大垣市・興文地区センター2階

大垣市東外側町・大垣保健センター隣

大垣駅南口から徒歩7分



興文地区センターの駐車場は狭いので、ほとんど停められません。お車の方は、隣の市営駐車場(30分100円)、又はSaitoピアセンター(時間制限なし200円)か、大垣城公園西側道路(土曜は駐車可)に停めて頂くと良いと思います。

村民融和へ試練の統投



該橋村長選舉票結果

藤橋村長選開票結果			
島中	聰明	66	無新
185	島中	聰明	66
158	横山	鶴源	11
			無新
			三確定得票

で、越山の正直を繰り継ぐは
る岐阜市在住の増山たけ子
さんのお手本的な村を地域
から熟され、わらしは宿泊
したがる村を見た。岐山を愛
け敬いでくれる村だから、
今回の選舉は決して長いと
いました。

見つめる目厳しく
全くに沈む旧高山村出身
で、標山の石碑を彌り經け
る岐阜市在の増山に「子
さん」の大字名前を施す
から無理され、わざと隠さき
ながら出てた。標山を愛
い離れてくれる村だから、
今回の選舉は決して悪く
いました。

島中さんがこれまでにつ
いた感情は、もう、どう
しようもないけど、社會費
はかかる。これかねばあま
り大金ないことをまず、お金
は後の話の前に立つものだ
と思ってほしい。
（おはな村だから、必ず村
民の間にはじむが難むと
（や）我然だ。だが

は私たではなかったと想はう。彼らはしがみがいのない、自由なものを見なれど、し、自由に差でできる。これからも意見を交換しあって、この村を、彼らを育てる土壤としたい。

自民連、新日本連合などは、たれに國民生活や、選舉運動中の個人私説を含め、村に住む若者の素情などを発見した。連

前職の島中義則氏がお亡くなりたる。村長の座についた。昨年六月の不明事件の原因問題を踏んで、村議会解散、村長選出コトル、村長の辞任を強めた村議

・持性は黄も、答えは見つかっていない。誰が結婚をどう受け止め、再出発の島田村敏に何を贈むかは、を見守る人々に聞いた。

藤橋村長に島中氏

ほどの日、相葉に面会して「この道を走る三月一日を突きのめられて辞職し、「医を問ひて」との如くした馬鹿は民は、利根川はさや秋田日高を走らした。だが、遠藤で母山山ダムをめぐる回顧の「父」です。

1997年6月5日 島中敏朗村長が大佐の会社社長と不動明了な「1億円の支払」を契約
6月17日 徳山ダム建設に伴い、村が移転した寺に移転費用の助成分として5000万円を支払った問題で、村議長が島中村長らを提訴

6月27日 村議会が村長不届届案を可決し、自主解散

7月22日 出面し村議員告示。6人全員が無投票で当選

7月23日 勇中村長が会社社長を拒否取り、「1億円支払いNOの実現はないと」を掲げて抗議

10月24日 岐阜地裁が、街頭立派を競めていた会社社長の街頭を差し止め板垣効果誕生

11月7日 前村議長らが村長リコールの署名運動を開始

12月1日 村議2人が島中村長ら2人を公職選挙法違反で投票権に拒否

12月7日 署名運動終了。署名は本請求に必要な121人を上回る161人分に

12月8日 署名箇所を巡回選舉管理委員会に提出

1998年1月5日 村選管の審査の結果、121人分の署名箇所を添えてリコールの請求書

1月12日 県警察暴力対策課と相談後、会社社長らを行政指導勧告の上で逮捕

1月14日 島中村長が村報の新年あいさつで辞意を表明

1月15日 島中村長が1月議會議長に辞職願を提出

1月22日 勇中村長辞職

2月24日 出面し村長選争告示

3月1日 投開票

• 村民與人際關係

	だれに投票したか どんな勢力が壁ましいか
女 40代 主婦	森中氏／静かな村に戻して、紛争は こりこり。大ざさらなことは控えて
女 50代 団体懇親会長	横山氏／差違のある選択はおのずの便 い方をしてほしい
男 30代	明かまず。だから見たイメージを捉 えするより自分が手本になるように
男 20代 会社員	横山氏／差違でなく、みんなの意見 を聞く。判断のことを決めてほしい
女 60代 無職	森中氏／村民が安心して暮らせる村 にしてほしい
女 70代 会場	横山氏／差違で何気に聞かれた村歌 を聴き
男 70代 農業	森中氏／差違をうようトンネルを 走って、やがて自分は粗末して決めて

活力ある平和な藤橋を

岐阜 3/2

出直し藤原村即選

低得
下票

今は特に感想ない

「今は特に感想ない」

島中村長に有権者注文

を尋ねてみたが、本日の村の
活性化。どうすれば若い

大きな大きな収穫がありました。あすからまた、は

京で今後も活動を展開し、
より相手の要勢を競つた。
選舉事務所には、選舉運

前半もその理由からむづかしく思はれていた。丁度運動を揺れた新車の出直し練習道は、田舎の空氣と新鮮な風が、馬鹿の如く心地よい。しかし、耕作用土産の急進小村は、八方睨みも騒乱に明け暮れた。今後は村のイメージ回復に努め、政の運営を直して行くのが課題だ。村内にはリコール運動や選挙を前に、活発な議論を交わす機会が多い世代を中心とする人々、村民の行政への関心が高まつた。「結婚はやめ、通商や税政の実績を早く取り出しよ」とほれい、「生民が自由に生きる村をつくって」という声がある。新村長は、こうした授業に耳を傾け、「こんなことをやめておきたい」とか「やめてもいい」。小さい村は、小さいから、住民一人ひとりの声を直接反映できる無理があつた。一方、おれの有権者に、新村長に対する注文を聞いた。

重要人物の記述

さくらんぼ

勧員の労ねぎらう

月刊「技術と人間」3月号から「徳山ダム問題問題を考える」という連載を始めています。3月号は「審議会とは何だったのか」4月号は「藤橋村」前半で、横山ダム／徳山・杉原ダム問題とこの半年の動き、5月号には、藤橋村でリコール運動の代表者を務められた中川治一さんが今回の運動について書かれます。原稿料は雑誌現物で受け取っていますので、購入を当会事務局に申し込んで頂けると運動資金になります。（一冊八九三円を多少割引できます）

ります。3月号は一審議会とは何たつたのか一月号には、藤橋村でリコール運動の代表者を務取っていますので、購入を当会事務局に申し込

藤橋村村長選挙

「藤橋村を拓く会」の横山さん惜敗

注目を集めた藤橋村村長選挙は3月1日に投票が行われ、投票率97.49%、島中敏朗氏186票、横山周導氏158票という結果でした。リコールの本請求が出された村長が辞任し、再選されるというのは常識では考えにくい構図です。しかし、見方を変えれば、島中村長がいかに独裁的に村に君臨してきたかという証明でもあり、村を変えようと立ち上がった「藤橋村を拓く会」の人々の勇気の大きさが分かります。

落選が判明した直後、一瞬の悔しさをかみしめた後、横山氏の選挙事務所の中は、すぐに、新しい運動に向けた決意に満ちていました。横山氏をはじめ、運動の中心メンバーの「敗戦の弁一次なる決意表明」の内容の濃さ、格調の高さをそのままお伝えできないのが残念です。藤橋村の民主化、住民自治は確かに大きく一步を踏み出しました（島中村長は辞任・再選のため、任期は残り1年半。「藤橋村を拓く会」は「もっと若い候補者の擁立」をも念頭に入れながら、すでに活動を始めている。）

藤橋村の村長選挙では、「徳山ダム」は争点にはなりませんでした。隣村とはいえ、藤橋村と徳山村は、歴史的に接点は多くありません。「徳山ダム建設予定地の村」になったことには藤橋村の村民の選択の余地はなく、「すでに決まったことが押しつけられただけ」でした。他の多くのダム建設予定地とは大きく感覚が異なるのはやむを得ない面があります。しかし、一方で「藤橋村に君臨する島中ワンマン村長」を生み出したのは他ならぬ徳山ダムを巡る巨額のお金であることは間違いません。今後、藤橋村の民主化を進める人々が、巨大ダム＝徳山ダムを、村の未来の中で、どう考えていくのかは大変重要な問題です。

藤橋村の人々に、「徳山ダム」について理解してもらう努力を、引き続き行いたいと考えます。同時に、長い間「既定方針」であった巨大公共事業＝徳山ダム建設の中止ということに伴う諸問題（多分、私達が思い至らないような事柄も多々あると思われる）を、藤橋村の住民の視点に寄り添って、掘り下げ、解決策を考えるという姿勢を失ってはならないと思います（「ダム反対を言う都会の人間は『ダムに反対しない水源地の人間は自然を売り飛ばす金の亡者だ』と決めつけている」という誤解と反発は根強く存在する。）

2月14日のシンポジウムは、上流と下流の思いを交流させて、新しい方向を考えていく画期的な第1歩でした。これからも藤橋村の人々、旧徳山村の人々の直接の声を聞きながら、私達のできること、やるべきことを探って行きたいと思います。

新年度 工事強行か　強制収用は許さない

藤橋村の島中村長は、地権者と話し合うことも一切せず、辞任の当日（1月22日）に「強制収用」への道を進める書類を公団に出し、「協力要請」を行いました。島中氏は1年半後には村長再選の目がないことを感じて、なりふりかまわず「建設促進」に動く可能性があります。それは梶原岐阜県知事、小倉大垣市長も同様。「伝家の宝刀＝強制収用」を抜きたがっている人があっちにもこっちにも…油断はできません。